

研究テーマ

①「互いの人権を尊重し、共に認め合う子どもの育成」 ②「学校と家庭の連携による家庭学習習慣の確立」

(学力向上検討委員会) 学力向上推進員 校長 教頭 教務主任
人権教育主事 算数主任 生徒指導主事 研修主任 国語主任

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よさ	児童の漢字・計算・視写・音読などの基礎学力向上をめざし、全校で取り組んだ結果、漢字の読み書きや計算などの基礎学力は、ある程度の定着が見られる。	①漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②文章を読んだり、書いたりできる。	漢字や計算において学力テストで70%以上の到達率達成した児童の割合を、下学年90%以上、上学年85%以上にする。	・漢字・計算の反復練習を継続し、指導の仕方も学習意欲が高まるように工夫する。 ・習熟の個人差に対応するために、個別指導をさらに充実していく。	・朝の活動では漢字・視写・計算のドリル学習を行い、授業でも小テストやワークシートを工夫して知識・技能の習得に努めている。 ・推薦図書を設定し、読書数により表彰している。 ・家庭学習に音読練習をし、異学年で読み聞かせ交流会も行っている。	・漢字や計算において学力テストで70%以上の到達率が下学年89.2%、上学年83.8%で、下学年・上学年共目標をほぼ達成できた。また、基礎的計算力は定着しつつあるが、漢字等の基礎的知識の定着は、個人差が大きい。
課題	語彙数が少なく、文章を読むこと・書くことを苦手とする児童が見られる。	具体的方策(教員の取組)	取組指標	評価	次年度における改善事項	
		①漢字・視写・計算のドリル学習を、授業中や朝の時間を活用して行う。定期的の確認テストを行い、集計して次の指導へ生かす。 ②授業中・教室掲示を充実させ、言語環境を整える。 ③学習に支援のいる児童への補充学習を充実させる。	①単元ごとに確認テストを行う。 ②ノートの点検 ③週1回以上補充学習の時間を確保する。	B	・効果的な漢字・計算の指導方法について話し合い、ドリル学習などで反復練習することで基礎学力をつけていきたい。また、定期的の小テストをするなどして定着を図る。 ・読書や新聞等、活字に慣れ親しむことの習慣化を支援していくため、学級文庫や図書室の本を精選して揃えたり、読書量を増やす工夫を継続して行っていきたい。音読の機会を増やし、異学年での読み聞かせ交流会も行っていく。家庭での読書が増えるよう、保護者にも協力をあおんで取り組んでいきたい。 ・習熟の遅れのある児童への個別指導を継続していきたい。	

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	音読・群読に対し、真面目に取り組む、読む力は伸びてきている。	目的に応じて、根拠や理由を明らかにし、自分の思いや考えを進んで話したり書いたりすることができる。	学校アンケートで「自分の考えを説明するのは苦手である。文章を書くのは苦手である。」と解答した児童の割合を20%以下にする。	・自分の考えを説明するのが苦手な児童は、13.9%で成果指標を達成している。自分の考えを書く、発表する時間を授業中確保する。 ・教師の授業スキルの向上及び指導の仕方を工夫していく。	・学校アンケートの結果より、自分の考えを説明するのは苦手な児童の割合は、18.9%と成果指標20%以下を達成している。文章を書くのは苦手な児童の割合は、22.4%と成果指標20%以下を達成していない。
課題	様々な学習場面での言語活動を通して、自分の考えを深め、相手や目的に応じて、適切に話したり書いたりできる力をさらに伸ばす必要がある。	具体的方策(教員の取組)	取組指標	評価	次年度における改善事項
		①授業の中で、自分の考えを述べたり、書いたりする機会を多く設定する。(授業の振り返りもノートに書く活動を取り入れる。) ②図書や新聞など活字に親しませ、読書活動の充実を図る。	①授業の中で、系統立てて解き方を絵や図で表したり、説明したりする技能が身につくよう工夫する機会を多く取り入れる。 ②作文読本などに、作文や詩を投稿する。	B	・グループ学習・ペア学習の時間を増やし、意見を交換することで、自分の意見を述べられるように力をつける。また、理由を付けて意見を説明できるよう助言する。 ・応用問題(長文等)を解くために、連続的思考力、また、条件付きの抜き書きや大切な言葉を見つけ要約するスキルも身につくよう指導していきたい。また、筋道を立てて考える思考力・表現力も、図形を示して、説明できるよう支援する。 ・授業のめあて・まとめ・振り返りを毎時間継続して取り組む。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	与えられた課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。	①児童一人一人が自分の考えをもち、友だちとの考えと比較・検討する過程で、考えを広げ深めることができる。 ②学習の準備がきちんとでき、家庭学習や苦手な課題についても、自分から取り組むことができる。	①学校アンケートで「友だちの意見を聞き、自分の意見を言うのが楽しい。」の割合を70%以上にする。 ②「問題が解けないとき、あきらめないでいろいろと考えている。」(学校アンケート)の割合を90%以上にする。	・話し合いの基本的スキルを身につけさせ、ホワイトボードやICT機器等を使用し話し合う機会を増やし、楽しんで協同的に学び合えるよう取り組んだ。 ・家庭学習の手引きにそった家庭学習学年×10分に取り組ませ、優れた学習ノートを紹介するなど意欲を喚起するよう努めた。	・友だちの意見を聞き、自分の意見を言うのが楽しい児童が86.4%で、成果指標70%以上を達成している。また、問題が解けないとき、あきらめないでいろいろと考えている児童は、95.2%で、成果指標90%以上を達成している。だが、一部、学習規律の低下は見られる。
課題	学年に応じて、家庭学習の時間を決めて、学年が進むにつれて、家庭学習の時間が確保できていない状況である。また、自分から課題を見つけて取り組むことが苦手である。	具体的方策(教員の取組)	取組指標	評価	次年度における改善事項
		①児童の主体的な体験や活動を授業や学校生活全般に取り入れる。(ICT機器の活用やホワイトボードミーティング等) ②「家庭学習の手引き」にそった家庭学習や苦手な課題に根気よく取り組ませ、自主学習の仕方や、自主学習ノートの書き方などを例示する。	①学校生活の中で、児童の意欲的な活動を賞賛する。 ②ノートやプリントの提出状況を把握し、個別に指導助言する。	A	・ホワイトボードやICT機器を使用し話し合う機会を増やし、楽しんで協同的に学び合えるようにし、教師がファシリテーターとなり、教師対児童、児童対児童と話し合いが深まるように授業を構築していく。 ・体験活動を取り入れ、主体的・能動的な活動をする意欲が高まるよう工夫・改善していきたい。 ・学期ごとに学習チェックシートを確認し、時間を守る。次の時間の準備をする等、基本的な学習規律を身につけさせることで、主体的に学習に取り組む素地をつくることに重点を置いて取り組んでいきたい。

平成30年度 学力向上ロードマップ

